



## 2027年卒エンジニア職を志望する学生の就活意識・実態調査

2027年3月卒業予定の大学生・大学院生対象

新卒エンジニア就活・意識実態調査



「日本を、IT先進国に。」をビジョンに掲げるレバテック株式会社( <https://levtech.jp/> ) は、2027年3月卒業予定の大学生・大学院生(うちエンジニア職志望学生144名・エンジニア職以外志望学生237名)を対象に、就活実態・意識調査を実施しました。

### 〈調査サマリー※一部抜粋〉

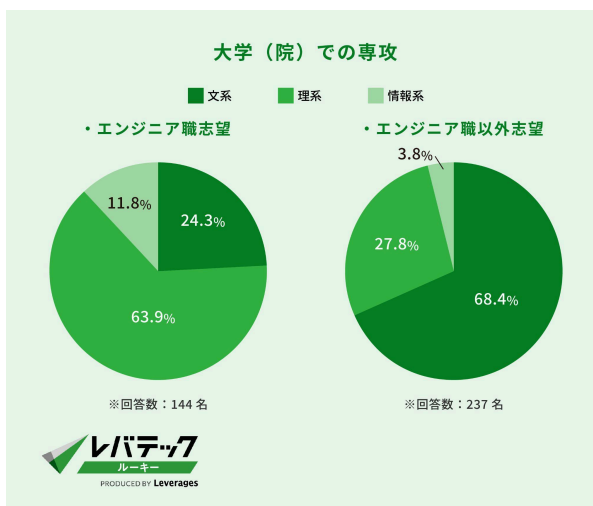
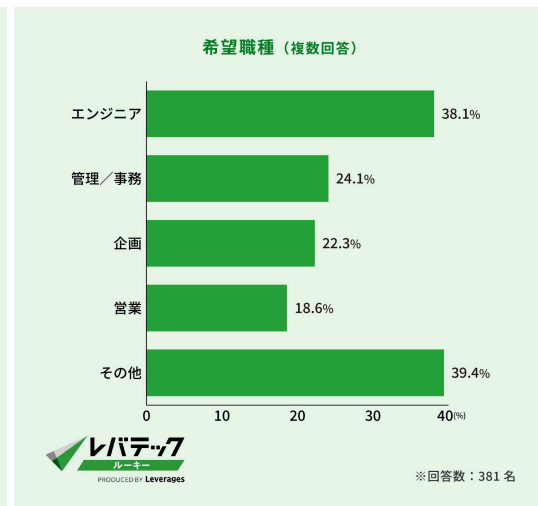
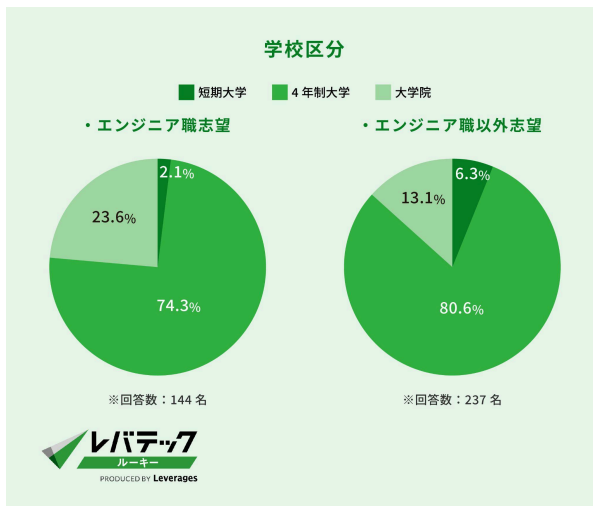
1. 27卒エンジニア志望学生の約8割が12月時点で就活開始、内定保有者も
2. インターンシップ参加後の約4割が「選考に進まない」と回答
3. エンジニア職を目指した理由は「安定していそうだから」が最多に
4. 就活にAIを利用している27卒エンジニア志望学生は7割超え、昨年度から20pt以上増
5. 約6割の27卒エンジニア志望学生が「AIの進化は将来目指す職種に影響を与えた」と回答、代替不安も
6. 約4人に1人が理想の初任給は「30万円以上」、企業による初任給引き上げが背景か

### 〈目次〉

1. 回答属性
2. 就活状況
3. 選考社数
4. インターンシップ参加状況

5. エンジニア職を目指した理由
6. 就職活動において難しいと感じること
7. 情報収集の手段と相談先
8. 職業観
9. AIの利用状況と職業観に与える影響
10. 転職について
11. 初任給
12. 出世欲について

## 1.回答属性

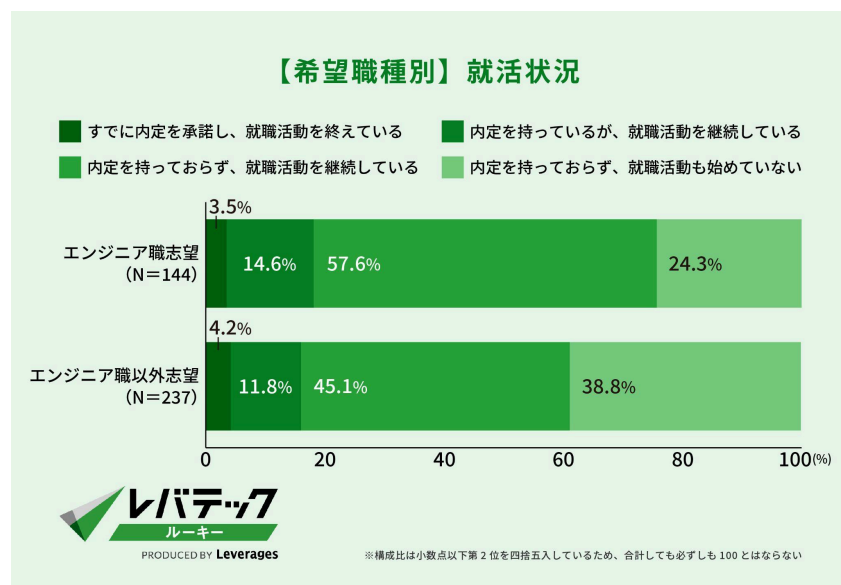
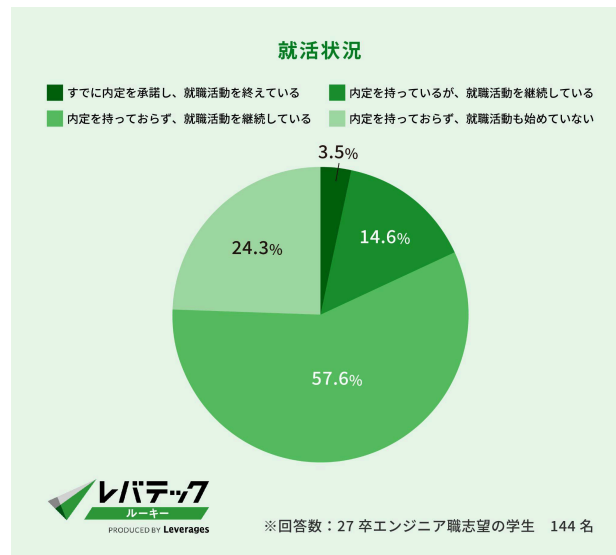


## 2.就活状況

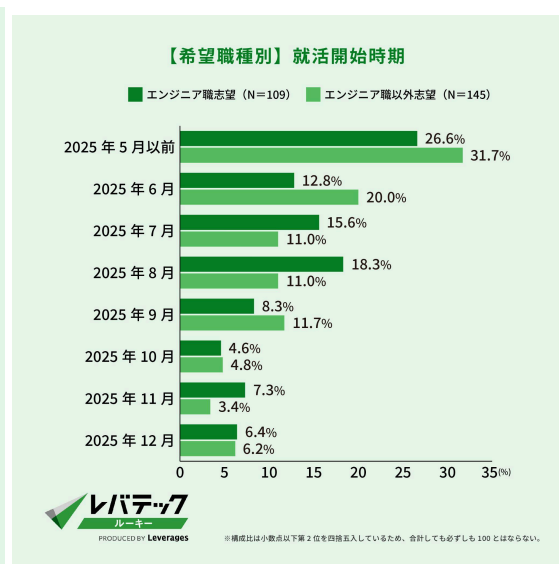
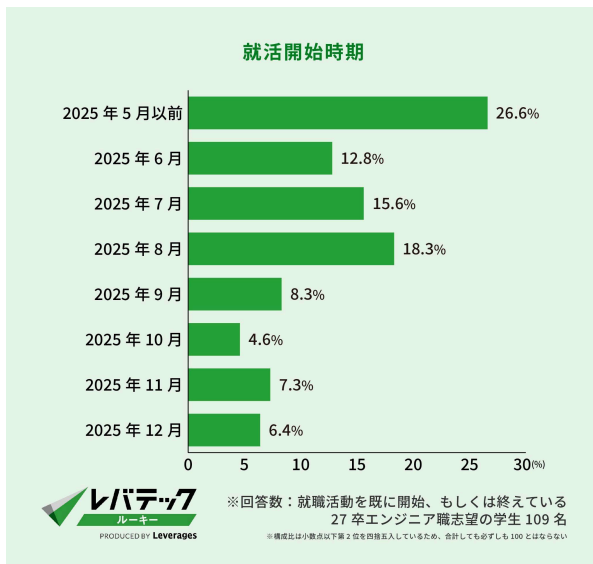
2025年12月時点で、就職活動を既に開始\*1している2027年卒のエンジニア志望学生\*2は合わせて約8割にのぼりました。内定状況については「すでに内定を承諾し、就職活動を終えている（3.5%）」「内定を持っているが、就職活動を継続している（14.6%）」を合わせ、約2割が内定を獲得していることが明らかになりました。

\*1 就職活動開始＝適性検査や説明会を受け始める時期として回答

\*2 本調査では、学生の希望職種を「エンジニア職志望」と「エンジニア職以外志望（営業、企画など）」に分類しています。エンジニア職とその他職種を併願している学生は「エンジニア職希望」に含めて集計しています。

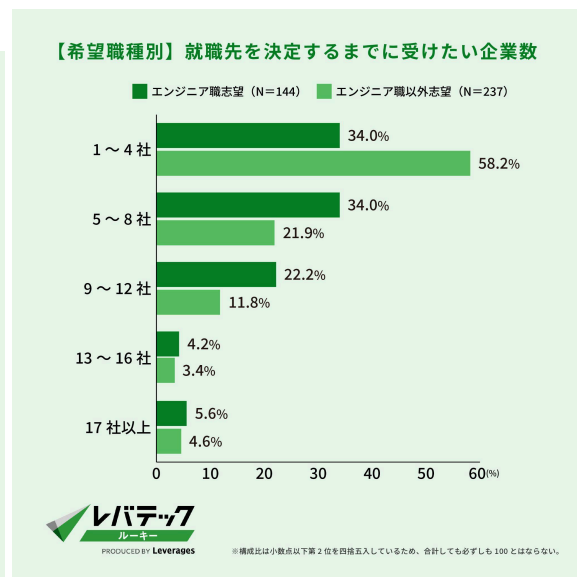
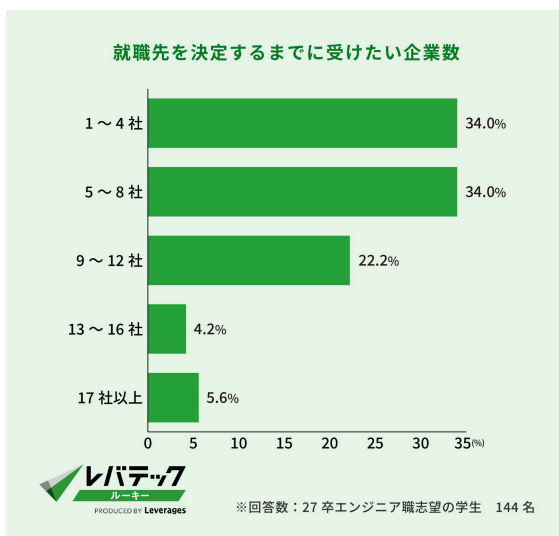


就職活動を開始した時期は「2025年5月以前(26.6%)」が最多となり、夏休み前の6月までには約4割が動き出していることが分かります。エンジニア職以外を志望する学生においても「2025年5月以前(31.7%)」「2025年6月(20.0%)」が上位を占め、希望職種を問わず就職活動の早期化が顕著となっています。



### 3.選考社数

2027年卒エンジニア職を志望する学生が、就職先を決定するまでに受けた企業数としては「1～4社(34.0%)」「5～8社(34.0%)」が多く、約7割が8社以内の選考で就職先を決定したいと考えていることが明らかになりました。一方、エンジニア職以外を志望する学生は「1～4社(58.2%)」が最多であり、より厳選した企業選択をしている傾向が見られます。

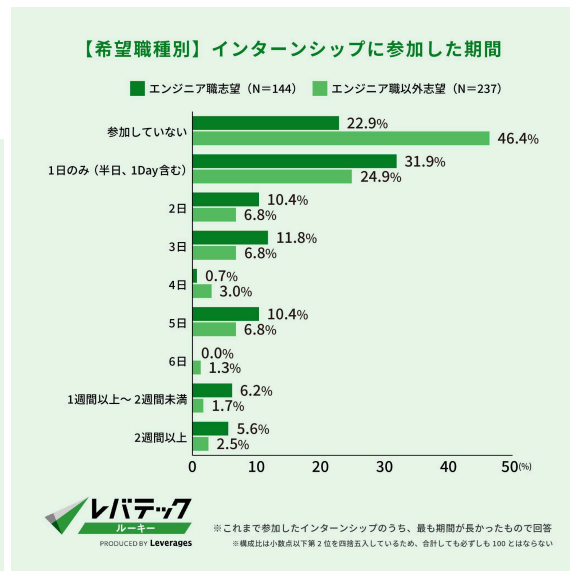
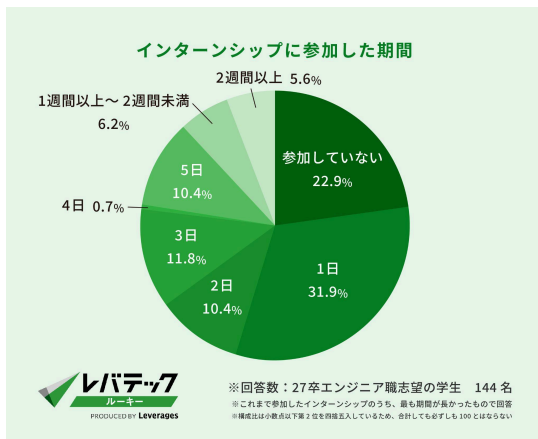


### 4.インターンシップ参加状況

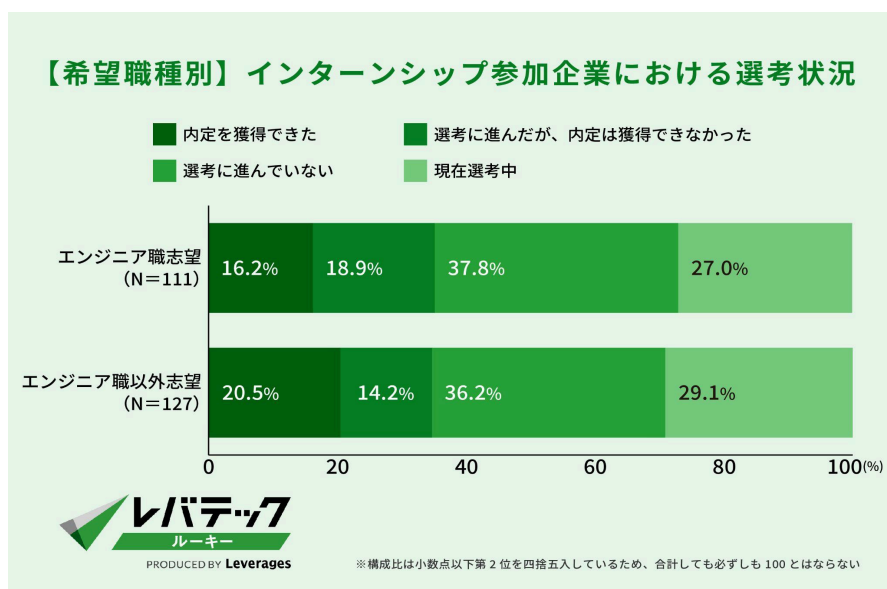
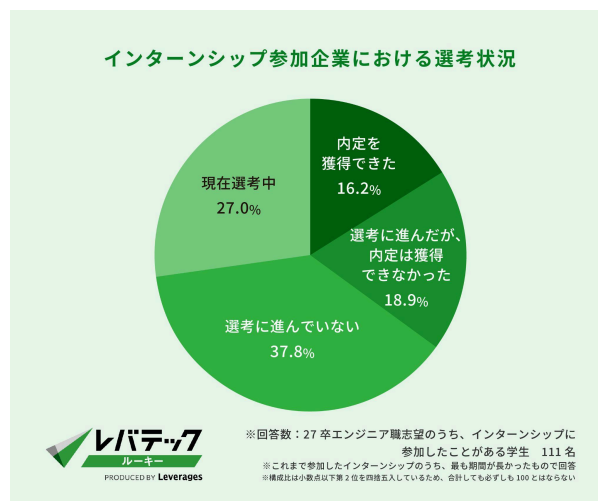
インターンシップの参加\*3については、エンジニア職を志望する学生の約8割が1日以上 of インターンシップに参加しています。エンジニア職以外を志望する学生のうち約半数は「参加していない(46.4%)」と回答し、希望職種別に差が見られる結果となりました。

\*3 これまで参加したインターンシップのうち、最も期間が長かったもので回答





インターンシップ参加後の選考状況については、約6人に1人のエンジニア職志望学生が参加したインターンシップ先から「内定を獲得できた(16.2%)」と回答しました。一方で、参加後に「選考に進んでいない(37.8%)」と回答した方も約4割存在し、インターンシップが学生にとって企業とのマッチ度を見極める機会になっていることが分かります。



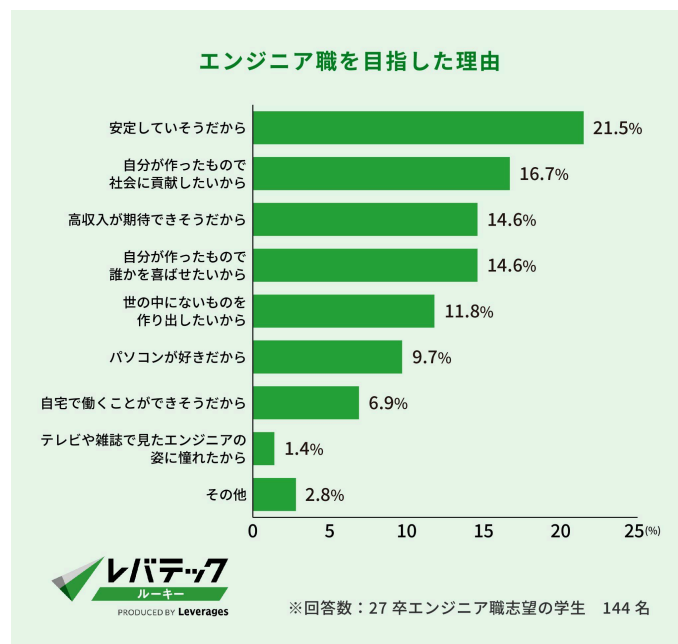
## 5.エンジニア職を目指した理由

2027年卒のエンジニア職を志望する学生がエンジニア職を目指した理由は「安定していそうだから(21.5%)」が1位となり、前年調査\*4で1位だった「自分が作ったもので社会に貢献したいから」を上回りました。先行き不透明な社会情勢を背景に、技術を身につけることによる職業的安定を求める傾向が強まっているのではないのでしょうか。

\*4 2025年3月発表「2026年卒就活意識・実態調査」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000742.000010591.html>

[https://levtech.jp/files/doc/LTR\\_research\\_2026.pdf](https://levtech.jp/files/doc/LTR_research_2026.pdf)



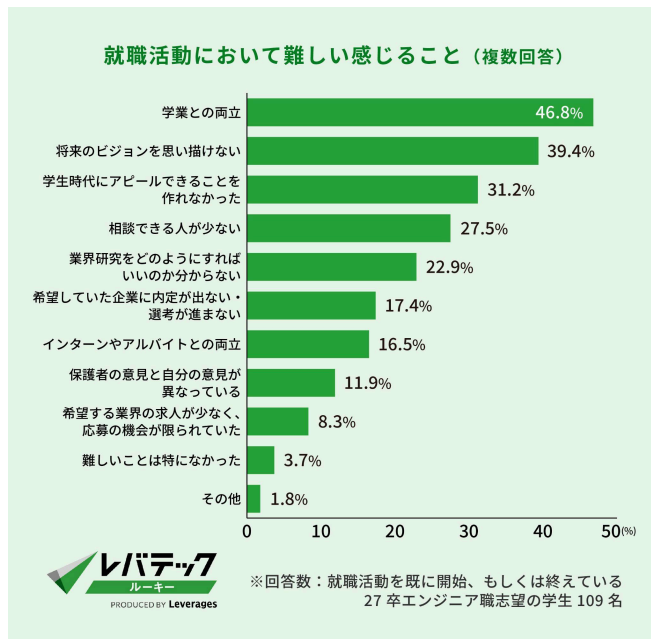
## 6.就職活動において難しいと感じること

就職活動において難しいと感じることについては「学業との両立(46.8%)」が最多となりました。昨年度の調査\*5では「就職活動について相談できる先輩や友人が少ない」が1位でしたが、今年度はそれを上回る結果となっています。就職活動の早期化や採用直結型インターンシップの公認により、研究やゼミが本格化する時期と重なっていることが、学生にとって大きな負担となっている現状が浮き彫りとなりました。

\*5 2025年3月発表「2026年卒就活意識・実態調査」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000742.000010591.html>

[https://levtech.jp/files/doc/LTR\\_research\\_2026.pdf](https://levtech.jp/files/doc/LTR_research_2026.pdf)



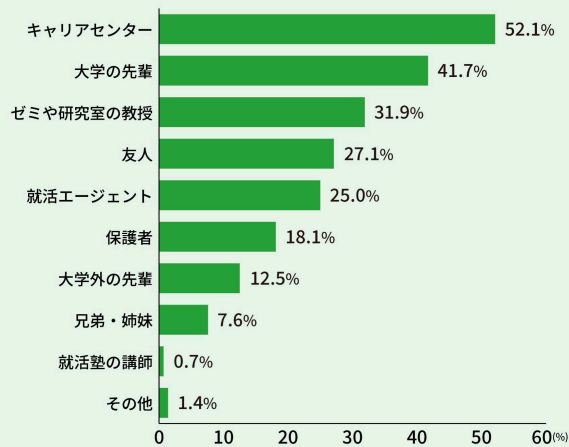
**【希望職種別】就職活動において難しいと感じる事（複数回答）**

	エンジニア職志望 (N=109)	エンジニア職以外志望 (N=145)
1位	学業との両立 (46.8%)	・ 学業との両立 (33.1%) ・ 将来のビジョンを思い描けない (33.1%)
2位	将来のビジョンを思い描けない (39.4%)	インターンやアルバイトとの両立 (31.0%)
3位	学生時代にアピールできることを作れなかった (31.2%)	相談できる人が少ない (26.9%)

## 7.情報収集の手段と相談先

2027年卒のエンジニア職を志望する学生が、就職活動において信頼している相談先は昨年同様「キャリアセンター(52.1%)」が1位でした。また、約4人に1人が「就活エージェント(25.0%)」を挙げており、大学や保護者といった身近な関係者だけでなく、より専門的な知見を持つ外部のプロに相談する学生が一定数存在することが分かります。

### 就職活動において信頼している相談先（複数回答）



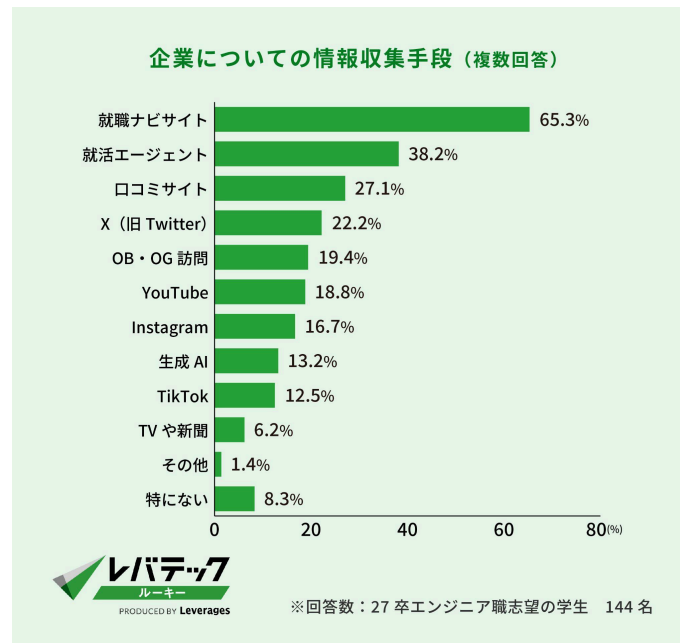
※回答数：27 卒エンジニア職志望の学生 144 名

### 【希望職種別】就職活動において信頼している相談先（複数回答）

	エンジニア職志望 (N=144)	エンジニア職以外志望 (N=237)
1位	キャリアセンター (52.1%)	キャリアセンター (55.3%)
2位	大学の先輩 (41.7%)	大学の先輩 (33.3%)
3位	ゼミや研究室の教授 (31.9%)	保護者 (27.8%)




企業に関する情報収集の手段としては「就職ナビサイト(65.3%)」「就活エージェント(38.2%)」が上位に挙げられました。その他「X(22.2%)」や「Instagram(16.7%)」「TikTok(12.5%)」などのSNSを挙げる学生も一定数存在しています。従来のナビサイトだけでなく、多様なチャネルを使い分けて企業のリアルな情報を収集している実態が浮き彫りとなりました。



**【希望職種別】企業についての情報収集手段（複数回答）**

	エンジニア職志望 (N=144)	エンジニア職以外志望 (N=237)
1位	就職ナビサイト (65.3%)	就職ナビサイト (52.7%)
2位	就活エージェント (38.2%)	特になし (25.3%)
3位	口コミサイト (27.1%)	就活エージェント (21.5%)

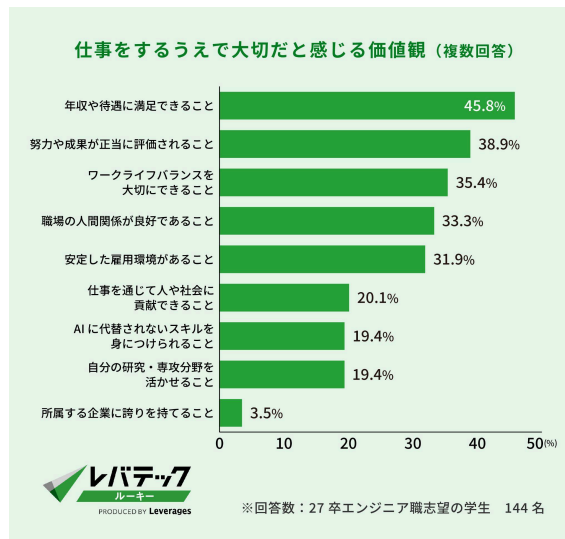

 PRODUCED BY Leverages

## 8.職業観

仕事をするうえで大切だと感じる価値観は「年収や待遇に満足できること(45.8%)」が最も多い結果となりました。社会人IT人材を対象とした調査\*6においても、仕事におけるモチベーションは3年連続で「給与」が最多となっており、社会人・学生を問わず、金銭的な報酬がキャリア選択における重要な判断軸となっていることが分かります。

\*6 2026年1月発表「IT人材白書2026」

[https://levtech.jp/files/doc/levtech\\_research\\_2026.pdf](https://levtech.jp/files/doc/levtech_research_2026.pdf)



**【希望職種別】仕事をするうえで大切だと感じる価値観（複数回答）**

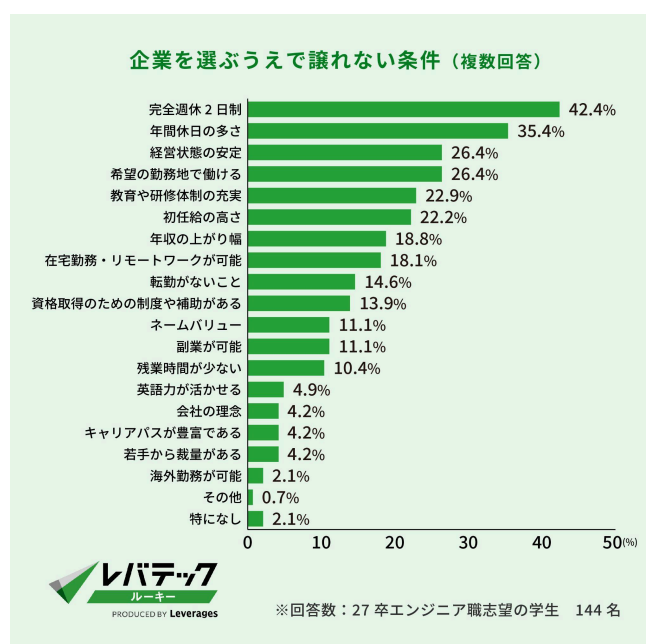
	エンジニア職志望 (N=144)	エンジニア職以外志望 (N=237)
1位	年収や待遇に満足できること (45.8%)	年収や待遇に満足できること (40.9%)
2位	努力や成果が正当に評価されること (38.9%)	安定した雇用環境があること (39.2%)
3位	ワークライフバランスを大切にできること (35.4%)	職場の人間関係が良好であること (33.3%)

企業を選ぶうえで譲れない条件については「完全週休2日制(42.4%)」「年間休日の多さ(35.4%)」が上位に挙がりました。2027年卒の学生は、前年度の調査結果\*7と同様、高い報酬を求めつつも、私生活と仕事を両立させるワークライフバランスを重視する傾向が継続しています。

\*7 2025年3月発表「2026年卒就活意識・実態調査」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000742.000010591.html>

[https://levtech.jp/files/doc/LTR\\_research\\_2026.pdf](https://levtech.jp/files/doc/LTR_research_2026.pdf)

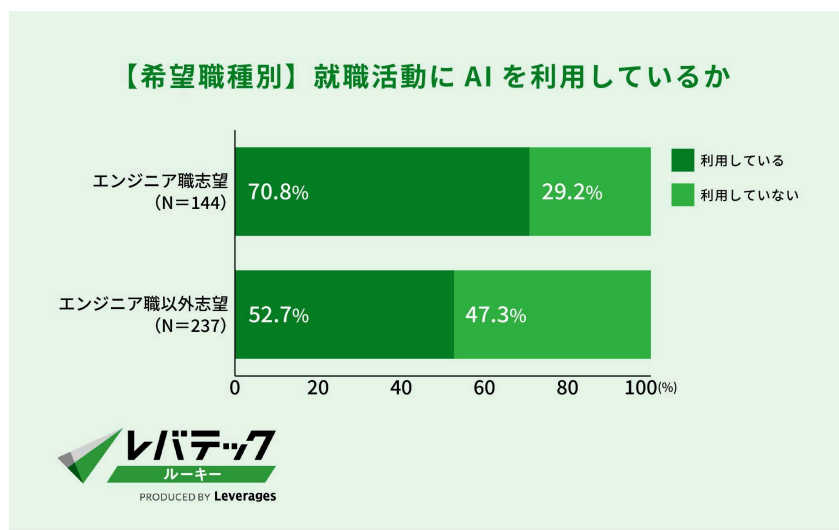
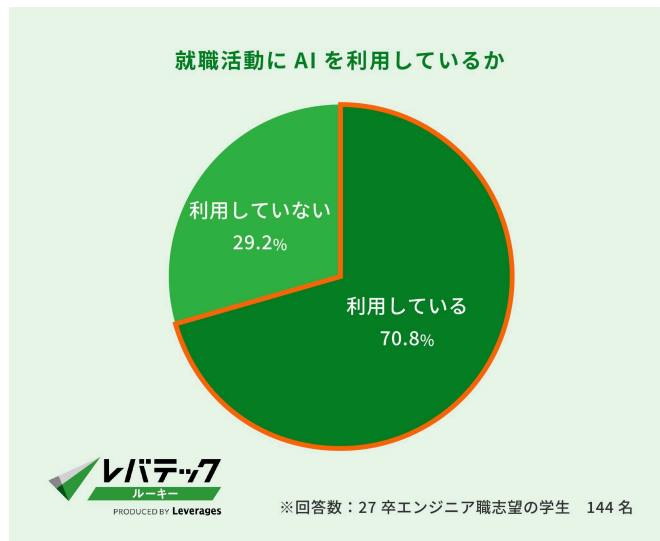


**【希望職種別】企業を選ぶうえで譲れない条件（複数回答）**

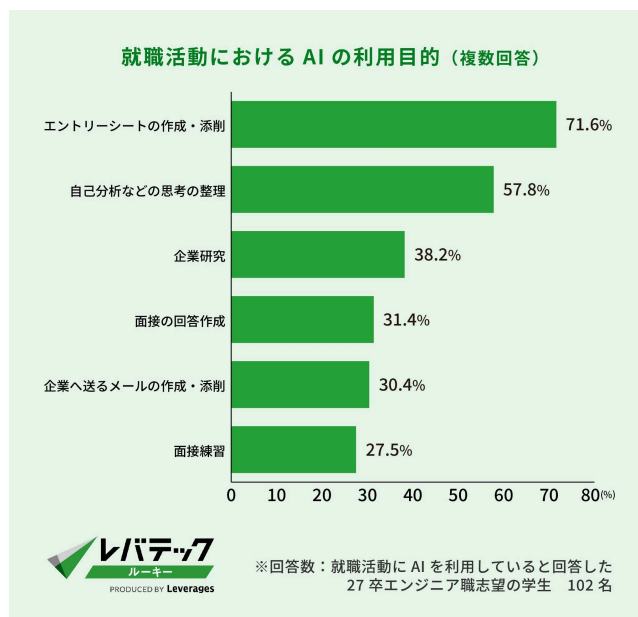
	エンジニア職志望 (N=144)	エンジニア職以外志望 (N=237)
1位	完全週休2日制 (42.4%)	完全週休2日制 (35.4%)
2位	年間休日の多さ (35.4%)	年間休日の多さ (30.4%)
3位	経営状態の安定 (26.4%) 希望の勤務地で働ける (26.4%)	希望の勤務地で働ける (29.1%)

## 9.AIの利用状況と職業観に与える影響

2027年卒のエンジニア職を志望する学生に対し、就職活動におけるAI利用状況について聞くと、約7割が「利用している(70.8%)」と回答しました。2026年卒を対象とした昨年の調査\*8では利用率が47.2%に留まっていたのに対し、今年度は20pt以上引き上がる結果となりました。またエンジニア職以外の志望者の利用率(52.7%)と比較して18.1ptの差が開いており、エンジニア志望者のAI活用が進んでいることが分かります。



主な利用目的は「エントリーシートの作成・添削(71.6%)」が最も多く、次いで「自己分析などの思考の整理(57.8%)」「企業研究(38.2%)」と続きます。





【希望職種別】就職活動における AI の利用目的（複数回答）

	エンジニア職志望 (N=102)	エンジニア職以外志望 (N=125)
1位	エントリーシートの作成 (71.6%)	エントリーシートの作成 (69.6%)
2位	自己分析などの思考の整理 (57.8%)	自己分析などの思考の整理 (53.6%)
3位	企業研究 (38.2%)	企業研究 (21.6%)



\*8 2025年3月発表「2026年卒就活意識・実態調査」

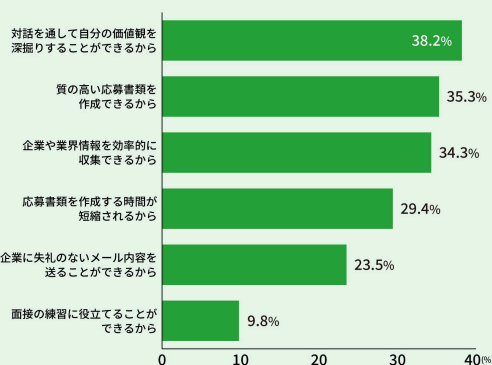
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000742.000010591.html>

[https://levtech.jp/files/doc/LTR\\_research\\_2026.pdf](https://levtech.jp/files/doc/LTR_research_2026.pdf)

利用理由については「対話を通して自分の価値観を深掘りすることができるから(38.2%)」や「質の高い応募書類を作成できるから(35.3%)」が上位に挙がりました。

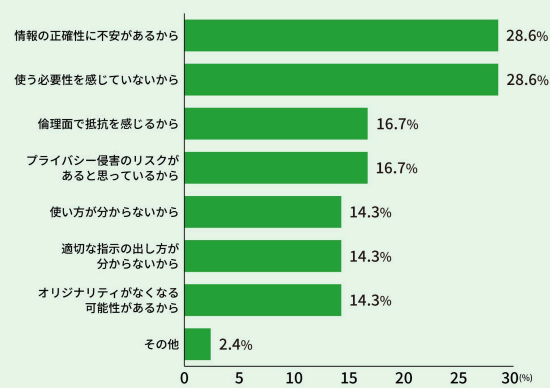
単なる時短ツールとしてだけでなく、アウトプットの質を向上させる手段として活用されている実態が浮き彫りとなりました。一方で使用していない理由は「情報の正確性に不安があるから(28.6%)」や「使う必要性を感じていないから(28.6%)」が同率で多い結果となりました。

就職活動に AI を利用する理由（複数回答）



※回答数：就職活動に AI を利用していると回答した  
27 卒エンジニア職志望の学生 102 名

就職活動に AI を利用しない理由（複数回答）

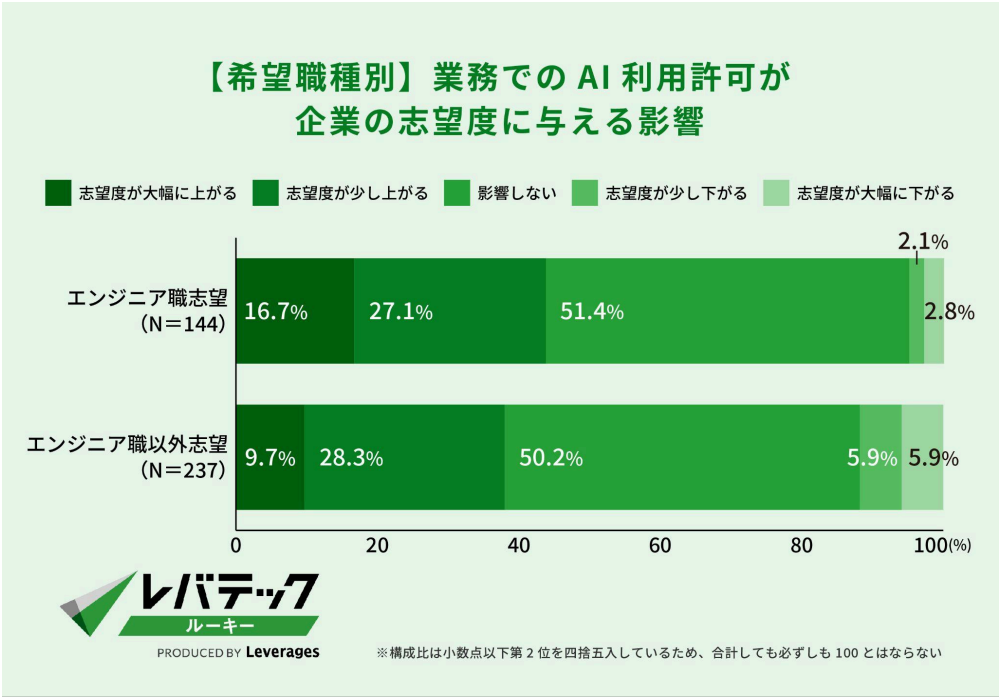
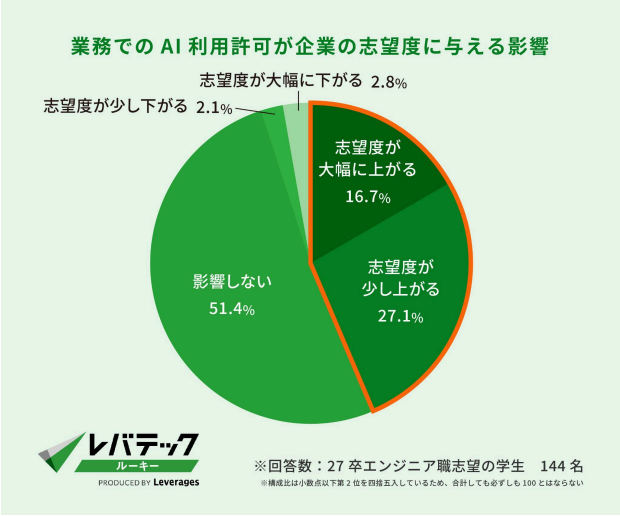


※回答数：就職活動に AI を利用しないと回答した  
27 卒エンジニア職志望の学生 42 名

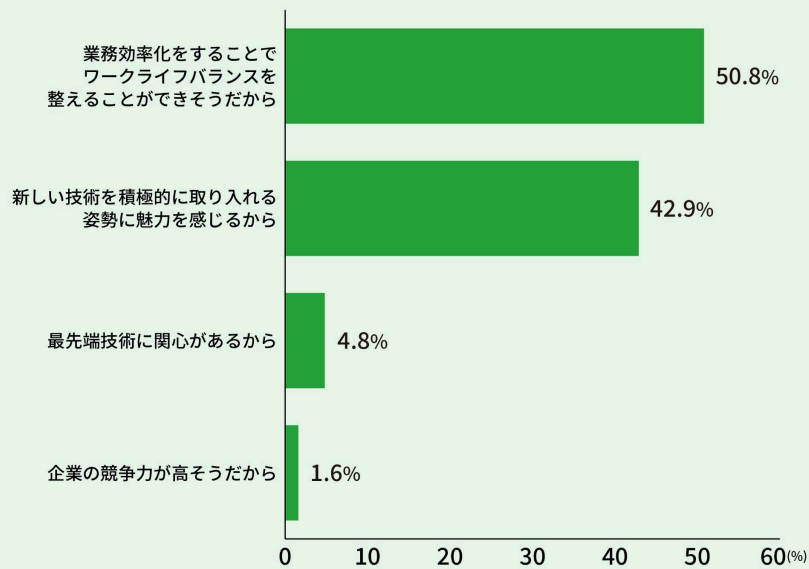
「業務で AI の使用が認められていることは企業の志望度に影響を与えるか」という質問に対し、「志望度が大幅に上がる(16.7%)」「志望度が少し上がる(27.1%)」と回答した方は合わせて約 44% でした。これは 26 卒のエンジニア志望学生の回答 (44.0%) と同水準であり、依然として企業の技術活用姿勢が重要な選定基準となっていることが分かります。

志望度が上がる理由としては「業務効率化することでワークライフバランスを整えることができるから(50.8%)」が最も多く、「新しい技術を積極的に取り入れる姿勢に魅力を感じるから

(42.9%)」が続きます。企業の技術に対する柔軟な姿勢がエンジニアを志望する学生にとって魅力の一つになっているのではないのでしょうか。



### 業務での AI 利用許可により志望度が上がる理由

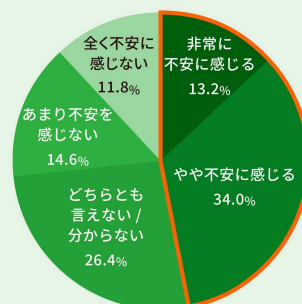


※回答数：業務で AI 利用が認められると企業の「志望度が大幅に上がる」「少し上がる」と回答した 27 卒エンジニア職志望の学生 63 名  
※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない

「AIの進化によって、ご自身が将来携わりたい仕事が代替されるかもしれないという不安を感じるか」という質問に対して、27卒エンジニア職志望学生の約半数が「非常に不安を感じる（13.2%）」「やや不安を感じる（34.0%）」と回答しました。

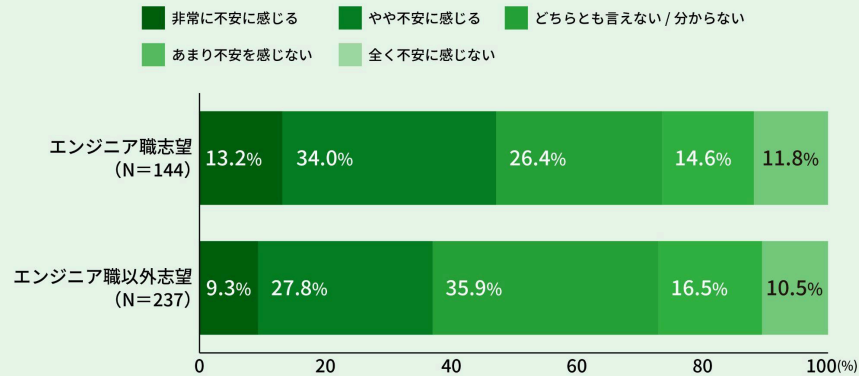
またAIの進化は将来目指す職種に「影響を与えた（18.8%）」「どちらかというに影響を与えた（42.4%）」と回答したエンジニア志望学生は約6割に達しています。エンジニア職以外を志望する学生（約4割）と比較しても、その影響度は顕著です。AIの急速な進化は、エンジニア職を目指す学生のキャリア観や職種選択にまで影響を及ぼしていることが分かります。

### AI の進化により、将来携わりたい仕事が代替されるかもしれないという不安を感じるか

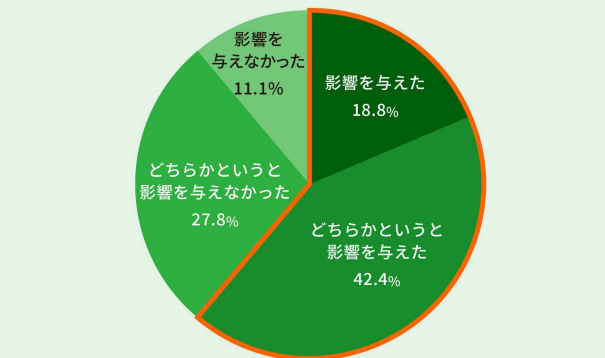


※回答数：27 卒エンジニア職志望の学生 144 名

## 【希望職種別】AI の進化により、将来携わりたい仕事が代替されるかもしれないという不安を感じるか

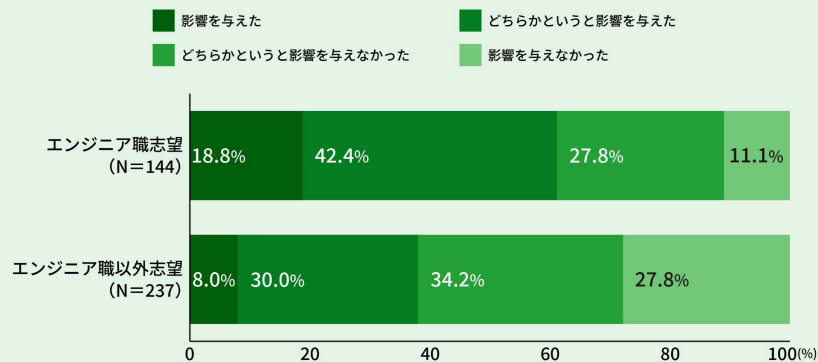


## AI の進化は目指す職種に影響を与えたか



※回答数：27 卒エンジニア職志望の学生 144 名  
※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない

## 【希望職種別】AI の進化は目指す職種に影響を与えたか

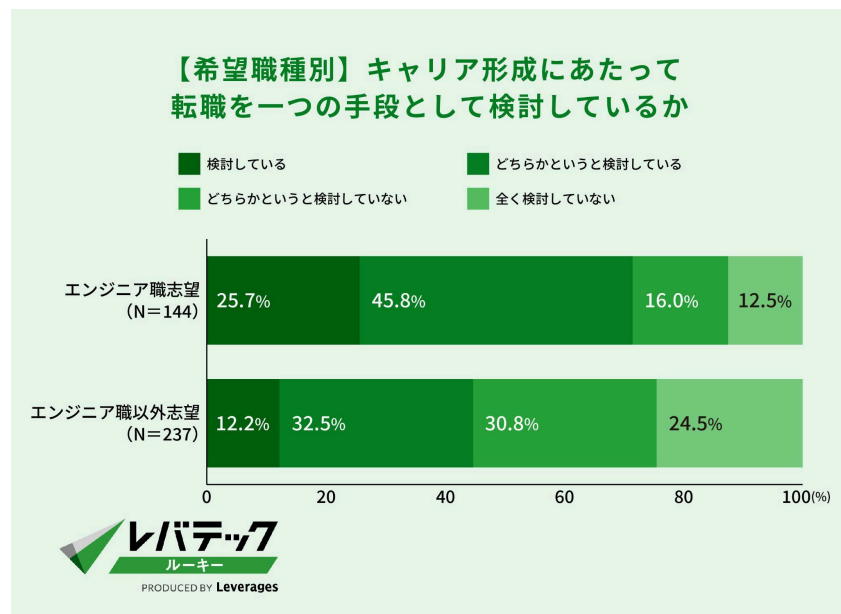
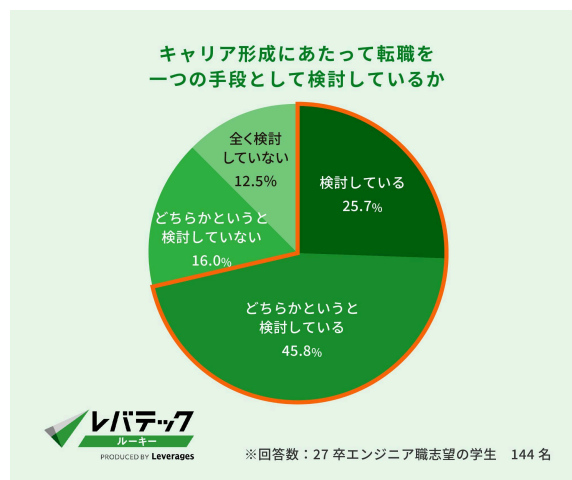


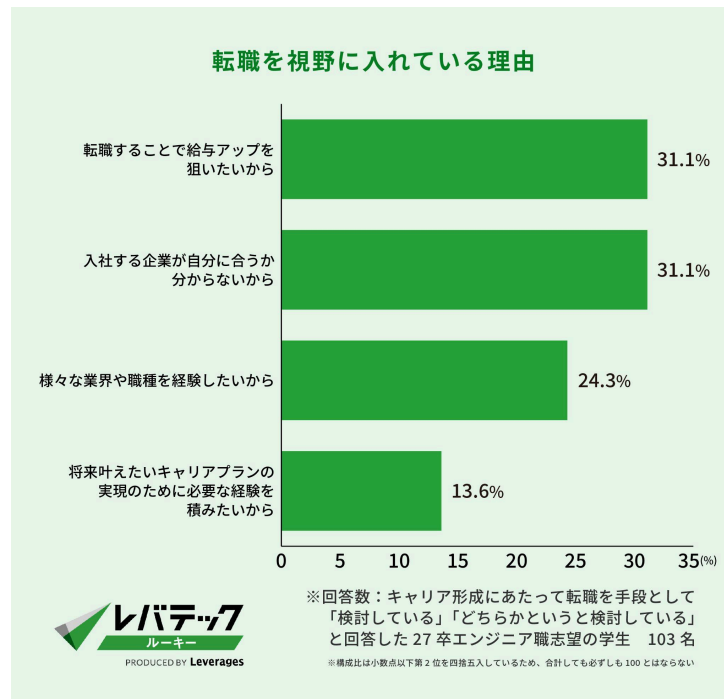
※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない

## 10. 転職について

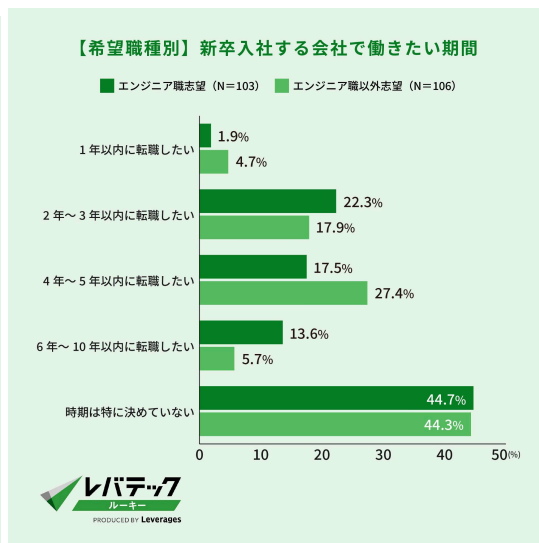
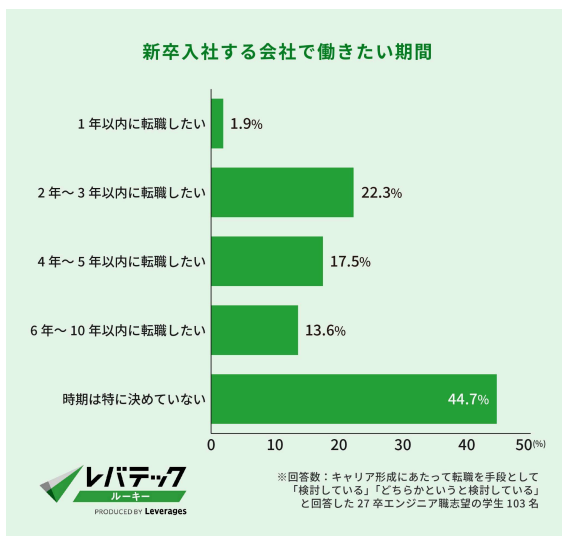
「今後のキャリア形成にあたって転職を一つの手段として考えているか」という質問に対し、2027年卒のエンジニア志望学生の約7割が「検討している(25.7%)」「どちらかというと検討している(45.8%)」と回答しました。エンジニア職以外を志望する学生(約45%)と比較して、比較的前向きに転職を検討する姿勢がうかがえます。

転職を視野に入れる理由としては「転職することで給与アップを狙いたいから(31.1%)」「入社する企業が自分に合うか分からないから(31.1%)」が同率1位となりました。一社での終身雇用を前提とせず、自身の市場価値を高めていこうとするキャリア観が浮き彫りになりました。



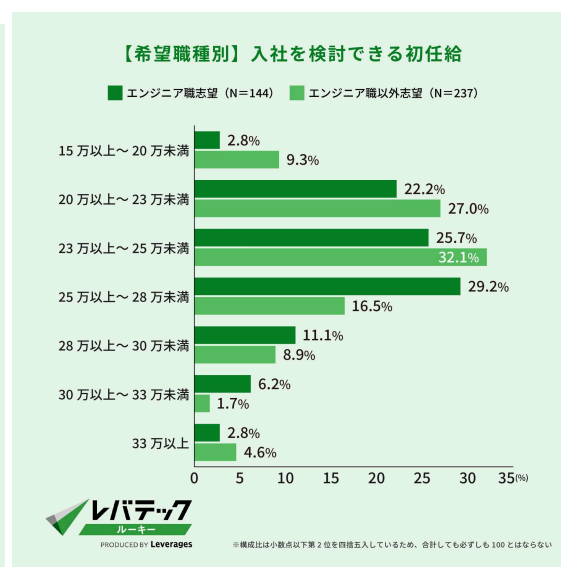
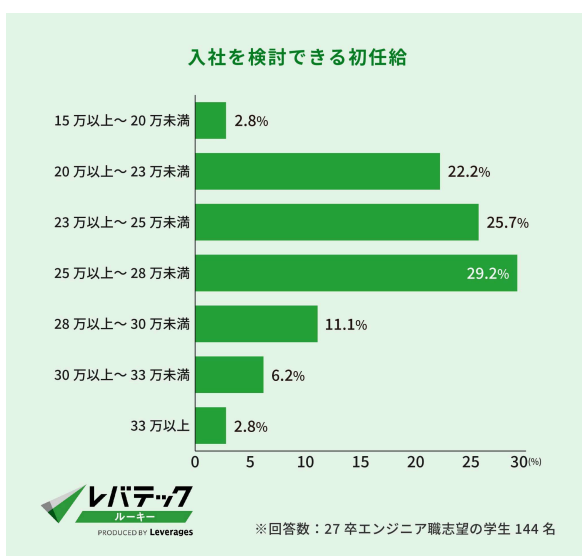


転職を視野に入れているエンジニア職志望学生が、新卒入社する会社で働きたい期間について「時期は特に決めていない(44.7%)」が多いものの、約4割が5年以内の転職を意識しています。新卒入社後、比較的早い段階での転職を希望する人が多いことが分かります。

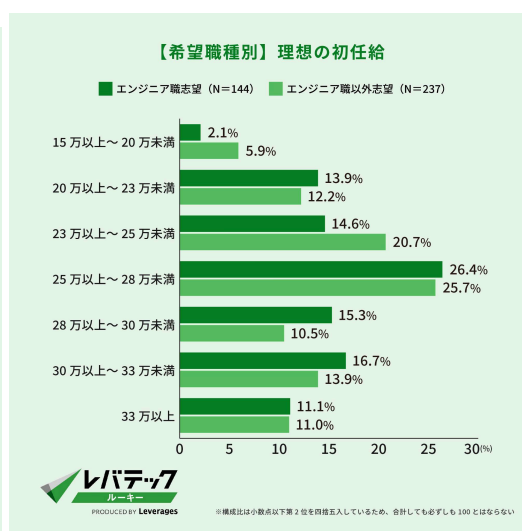
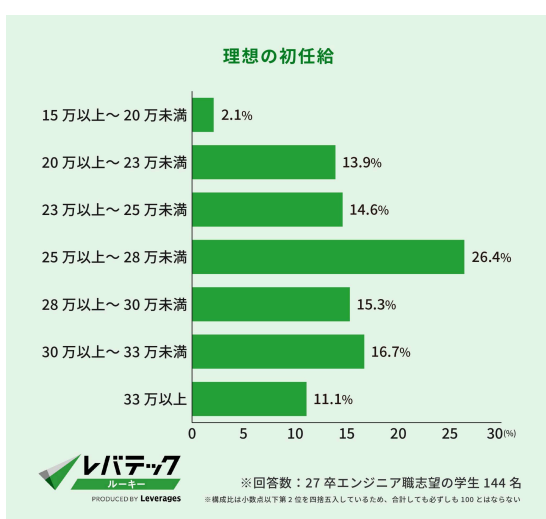


## 11.初任給

入社を検討できる初任給については、エンジニア職志望学生では「25万以上～28万未満(29.2%)」が最も多い結果となりました。エンジニア職以外志望学生の最多層である「23万以上～25万未満(32.1%)」と比較しても一段高い水準を求めていることが分かります。



理想の初任給についてもエンジニア職志望学生の約4人に1人が「25万以上～28万未満（26.4%）」と回答しました。「30万円以上」と回答した方も合わせて約28%存在し、昨年は約6%台だったことを踏まえると、企業による初任給引き上げを背景に学生の理想額も引き上がっていると考えられます。

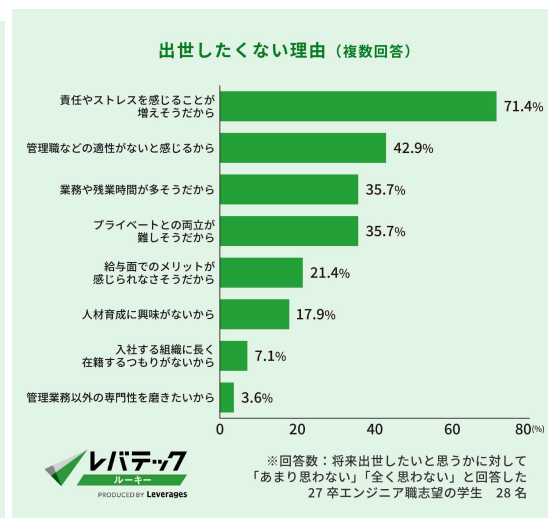
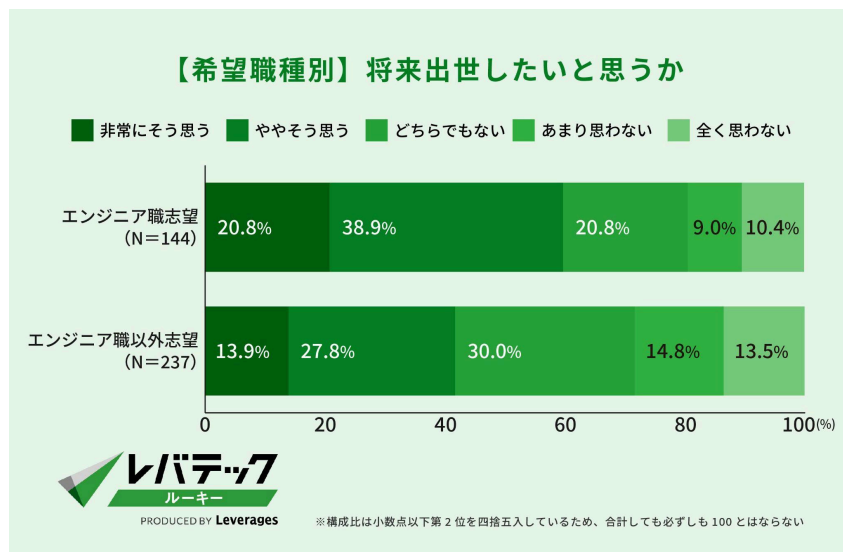
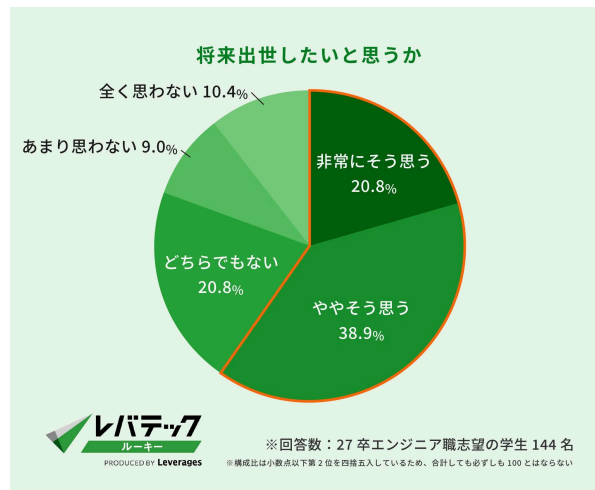


## 12.出世欲

2027年卒のエンジニア職を志望する学生のなかで、将来「出世したい」と回答した学生は約58%となり、エンジニア職以外を志望する学生(41.1%)と比較しても高いことが分かります。

出世したいと思う理由は「給与・報酬を上げたいから(74.4%)」や「社会的地位を上げたいから(46.5%)」が上位に挙がりました。一方で、出世したくない理由は「責任やストレスを感じるが増えそうだから(71.4%)」が最も多い結果となりました。経済的なインセンティブや社会的地位の向上を背景に出世を望む意欲は高いものの、出世に伴う責任やストレスへの懸念から、出世を望まない学生も一定数存在することが分かります。





## <調査概要>

調査年月：2025年12月12日～2025年12月22日

調査方法：インターネット調査

調査主体：レバレージーズ株式会社

実査委託先：GMOリサーチ&AI株式会社

有効回答数：27卒エンジニア職志望学生144名/エンジニア職以外志望学生237名

調査対象：2027年卒業予定の大学生・大学院生



レバテック株式会社は、「日本を、IT先進国に。」というビジョンを掲げ、IT人材の仕事探し・採用支援を行うHR事業に加え、企業のDX推進・内製化支援を行う事業を多角的に展開。

企業と個人の両面から課題解決を行い、日本の経済成長を牽引することを目指しています。



▽「レバテックフリーランス」フリーランスエンジニア専門エージェント

<https://freelance.levtech.jp/>

▽「レバテッククリエイター」フリーランスクリエイター専門エージェント

<https://creator.levtech.jp/>

▽「レバテックダイレクト」ITエンジニア・クリエイター専門求人サイト

<https://levtech-direct.jp/>

▽「レバテックキャリア」エンジニア/クリエイター専門の転職支援

<https://career.levtech.jp/>

▽「レバテックルーキー」エンジニアに特化した新卒向け就職支援エージェント

<https://rookie.levtech.jp/>

レバレジェイズ株式会社 ( <https://leverages.jp/> )

本店所在地：東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号 渋谷スクランブルスクエア24階 /25階

代表取締役：岩槻 知秀

資本金：5,000万円

設立：2005年4月

事業内容：自社メディア事業、人材関連事業、システムエンジニアリング事業、システムコンサルティング事業、M&Aアドバイザー事業、DX事業、メディカル関連事業、教育関連事業

社会の課題を解決し関係者全員の幸福を追求し続けることをミッションに、インターネットメディア・人材・システムエンジニアリング・M&Aの領域で国や業界をまたいだ問題解決を行なっています。2005年に創業以来、黒字経営を継続し、2024年度は年商1428億を突破しました。各分野のスペシャリストが集うオールインハウスの組織構成と、業界を絞らないポートフォリオ経営で、時代を代表するグローバル企業を目指します。

TEL:03-5774-2900 MAIL: [pr@leverages.jp](mailto:pr@leverages.jp)